

NO! リニア

No. 9 6

2016年8月24日

J R 東海労働組合

中部横断道工事で、崩落、湧水、重金属! リニアトンネル工事も二の舞か!?

新聞報道（2016年8月20日付『静岡新聞』）によると、中部横断自動車道（新清水 JCT～山梨県六郷 IC 間49km）が、難工事の影響で2017年度の開通を延期する方向で検討を始めたと報じました。工事が遅れている原因は、工事中の30トンネルのうち、18トンネルで崩落、5トンネルで湧水が発生し、追加工事を迫られたというものです。また、21トンネルで、残土に自然由来の重金属が含まれ、処理作業などが必要になったことも指摘しています。

注目すべき点は、中部横断自動車道は南アルプスの東側を南北に走る道路ですが、リニア中央新幹線は東西を走る（南アルプスを突っ切る）路線だということです。つまり、中部横断自動車道の難工事がリニアトンネル工事にも当てはまる確率が極めて高いということです。

リニアの南アルプストンネル工事で、環境アセスが発表される前から、南アルプスの崩落、重金属汚染が指摘されてきました。毎秒5トンの出水はJR東海が公表したデータですが、予期せぬ出水という現実から毎秒5トンを上回る可能性が出てきます。リニア工事においても、工期が遅延し建設費がさらに嵩むことが予想されます。私たちが危惧していたことが、いよいよ現実味を帯びてきたのです。

リニア中央新幹線建設は直ちに止めるべきです。

中部横断道開通遅れる

2016. 8. 20『静岡新聞』

国土交通省と中日本（JCT）と山梨県市町村間で開通時期を遅らせるため、今後、工程を精査する。同日、山梨県本高直町と中日本高規格道路格付課との間で、新清水JCT増穂IC間の掘削工事などの連絡調整協議会（約59回）で計30ある湧水が発生し、追加掘削工事が必要とされた。さらに、21トンネルの掘削に、16年度中の開通が予定されていたが、崩落や湧水、重金属汚染などの影響で、開通が延期される見込みである。

掘削工事の遅れは、21トンネルのうち、18トンネルで崩落、5トンネルで湧水が発生し、追加掘削工事が必要とされた。また、21トンネルで、残土に自然由来の重金属が含まれ、処理作業などが必要になったことも指摘されています。

掘削工事の遅れは、21トンネルのうち、18トンネルで崩落、5トンネルで湧水が発生し、追加掘削工事が必要とされた。また、21トンネルで、残土に自然由来の重金属が含まれ、処理作業などが必要になったことも指摘されています。

掘削工事の遅れは、21トンネルのうち、18トンネルで崩落、5トンネルで湧水が発生し、追加掘削工事が必要とされた。また、21トンネルで、残土に自然由来の重金属が含まれ、処理作業などが必要になったことも指摘されています。